

スーパービジョンの進め方①（サービス提供職員への個別スーパービジョン）

【登場人物と場面の説明】

事業所：就労継続支援B型事業所

伊藤さん（サービス管理責任者）男性・・・スーパーバイザー（SVR）

高木さん（職業指導員）女性・・・・・・・・・・スーパーバイザー（SVE）

高木さんは、就労継続支援B型事業所に勤務して3年になります。就職前に趣味の音楽サークルを通じて、障害者施設のボランティアを行っていました。その時、生き生きと生活している障害者の姿を見て、「障害があっても希望する生活を送れるような社会になって欲しい。その生活を支える仕事がしたい」と福祉の仕事に興味を持ち、現在の事業所に就職しました。

人と話をすることが大好きで、自ら利用者に声をかける等、明るい性格の高木さんですが、最近では、利用者との関わりが上手くいっていない様子で元気がありません。

サービス管理責任者の伊藤さんが、以前の笑顔が見られない高木さんと面談することとしました。高木さんは利用者Aさんとの関わりに悩んでいるとのことでした。

【高木さんが話してくれたこと（スーパービジョン面談の導入部分）】

利用者Aさん・統合失調症・50代・女性

ボールペンの組み立て作業を行っているが、Aさんは、時々、作業の手順を間違えてしまうことがあり、その都度、注意をしていた。何度か注意を重ねるうちに、「私はダメな人間だ。」と泣き出してしまった。「そんなことは、ないですよ」と伝えていたが、徐々に自分を避けるようになり、通所も不規則になってしまった。

Aさんとは、年齢も近いこともあり、作業の合間の休憩時には、よくおしゃべりをして笑って過ごしていた。自分のことを信頼してくれていると思っていたのに、最近では他の職員へ「高木さんが、私の悪口を言っている」「私の事を監視している」と言っている。

自分を避けているAさんと、今後、どう関わればよいのか、あからなくなってしまった。今までの関わり方が間違っていたのかと思うと自信がない。この仕事が、自分に向いていないのではないかと思うと、やりがいを感じなくなってしまった、と話しました。

【動画実演をご覧ください】

